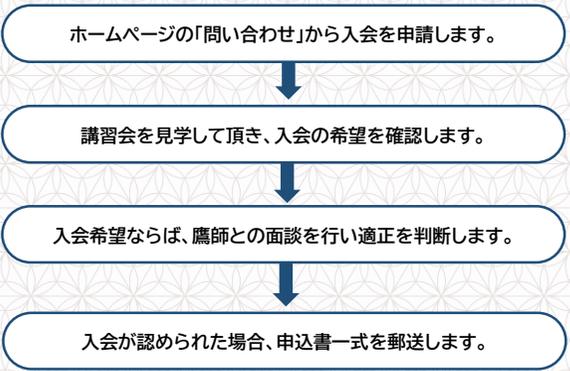


諏訪流鷹匠を目指す方を募集しております。年齢・性別は問いません。入会後は正会員(門下生)として鷹師から直接教養を受けます。入会は基本的に推薦者が必要ですが、講習会にお越し頂き鷹師との面談を受けて了承を得れば入会は可能です。相談からでも構いませんので、下記の問い合わせ先からご相談下さい。

◆ 入会の流れ



※入会前に鷹の保有、飼育経験は必要ありません。入会後の初期段階では当保存会所有の鷹をお貸しして訓練を進めていきます。

◆ 賛助会員の募集

保存会の活動維持、鷹狩伝統文化の保存、諏訪流鷹匠の育成を会員としての立場からサポートして頂く為に賛助会員を随時募集しております。

法人の方	年会費：105万円
個人の方	年会費：101万円

※賛助会員入会手続きの書類は、ホームページ「保存会の活動」からダウンロードして記入し、「お問合せ」から送付をお願い致します。

◆ ご寄付のお願い

日本の鷹狩文化を支えてみませんか？  
 寄付金は主に下記のような用途に使用させていただきます。

- ・鷹部屋の整備
- ・講習会費用
- ・餌動物の確保
- ・鷹道具の復元
- ・餌動物小屋の整備
- ・博物館建設



< 諏訪流放鷹術保存会 振込先 >  
 ゆうちょ銀行 〇一八支店 普通 9617147  
 スワリュウホウヨウジュツホゾンカイ

諏訪流放鷹術保存会への問い合わせ先

◆ ホームページ

諏訪流放鷹術に関する詳しい説明、当保存会の紹介・活動報告、お問合せ等を掲載しております。

実演会、後援会、撮影協力などのご依頼・ご相談は、ホームページの「お問合せ」から受け付けておりますので、お気軽にお問合せ下さい。

<https://www.suwa-falconers.com>



◆ 連絡先

会長(第十八代宗家 諏訪流鷹師) 大塚 紀子  
 Eメール: info@suwa-falconers.com

< 書類等の送り先 > ホームページのQRコード

〒198-0199 東京都青梅市御岳郵便局私書箱6号

◆ その他リンク先

**facebook** (諏訪流放鷹術保存会)  
<https://www.facebook.com/SuwaFalconryPreservationSociety/>

**Instagram** (事務局長:篠田朔弥) [souga\\_10](#)

将来の計画

◆ 鷹狩博物館の建設

古い鷹道具はその役割を理解されることなく、廃棄される可能性があります。それらの散逸及び消滅を防ぐことは、鷹狩文化の保存・伝承に役立ちます。

当保存会は、流派・国・民族を問わず鷹道具・鷹絵・古文書などの保管・展示・修復を目的とした日本初となる鷹狩博物館の創設を目指しています。

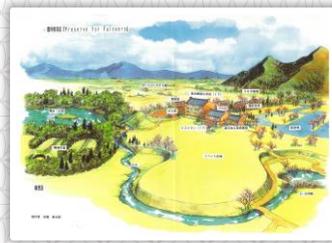


【 鷹狩博物館のイメージ 】

◆ 御鷹場の復興

鷹狩文化を体験し、愛好し、保存するためには里山となる場所が必要です。

当保存会では、鷹匠と一般の方々とが交流し、さらには海外の人々に日本の伝統文化を知ってもらう場所として、御鷹場の復興を目指しています。



【 御鷹場のイメージ 】



たかじょう  
 伝統ある鷹匠の技とところを育て  
 日本の鷹狩文化を未来に伝え残す



<https://www.suwa-falconers.com>

E-mail : info@suwa-falconers.com



鷹狩は約4000年前から中央アジア～中東から世界中に広がり『人類の遺産』として2010年ユネスコの無形文化遺産に11ヶ国が登録され、現在も多くの国で追加申請が進められています。

日本で鷹狩は1650年以上の歴史を持ち、諏訪流放鷹術保存会が継承して

いる諏訪流放鷹術は、織田信長・徳川家康に仕えた初代小林家鷹 鷹師を祖として第十八代宗家 大塚鷹師までおよそ450年以上の歴史を繋いできました。当保存会は、この鷹狩文化を継承・保存し、国内外に伝え残していくための活動を行っています。



使用する鷹道具



- ① 策(ぶち)
- ② 大箱(おおお)
- ③ 腰(えがけ)
- ④ 単頭巾(はやぶさずきん)
- ⑤ 餌合子(えごうし)
- ⑥ 餌合子覆(えごうしおおい)
- ⑦ 口餌籠(くちえかご)
- ⑧ 丸桶入(まるぼといれ)
- ⑨ クジリ
- ⑩ 鳩袋(はとぶくろ)
- ⑪ 鈴板(すずいた)/鷹鈴(たかすず)
- ⑫ 忍繩(おきなわ)
- ⑬ 爪嘴小刀(つめはしこがたな)

※道具の一部を紹介しています。

諏訪流鷹匠の装束

先々代の花見先生が宮内庁の鷹匠であったことに敬意を表するとともに、現時点で継承されている伝統的な鷹匠装束として正式な場で着用しています。



※実演では、諏訪流鷹匠及び鷹匠補は装束を着用することを定めています。

ごあいさつ

諏訪流鷹匠は、野生の鷹のような強さと居ずまいを備えた姿を生み出し、阿吽の呼吸で獲物を捕える『人鷹一体(じんよういつたい)』の境地を目指して努力しています。

鷹狩りの成功は「鷹匠七割、鷹三割」とも言われるため、鷹匠は日々鷹を敬い、体調を読み、鷹が動きやすいように自身が動くなどの心身の鍛錬を行っています。

この貴重な伝統を次世代に伝え残すため、鷹狩文化を包括的に学び、支えてくださる皆様のご参加を心より歓迎しております。



諏訪流放鷹術 第十八代宗家 大塚 紀子



諏訪流放鷹術とは

諏訪流は、信州の諏訪神社で御射山祭において、鷹で捕えた獲物を捧げる贄鷹の神事を司る神官であった諏訪氏大祝一族に継承されていた技と考えられており、現在に伝承された最も古い流派として、鷹を主人として敬うところは諏訪流に受け継がれています。

放鷹術とは、鷹匠が鷹とともに生き、野に出るために必要な技とところを表します。鷹匠は、調教に必要な所作を身につけ、「忍耐・寛容・感謝」の心をもって、鷹や餌動物、獲物の生息する里山、身近な人々などと接するように気を配ります。



【花見先生と田龍先生】



【鷹を羽合る 田龍先生】

諏訪流では、網懸(巣立ちした若鷹)の鷹らしい居ずまい、高い狩りの能力を好んだ歴史から、品格のある鷹をつくることを目指しています。門下生はそのために必要となる据え方、道具の使い方、羽合の型などのすべてを学びます。

活動の様子



【ビルの屋上から鷹を放つ】



【渡りを行う】



【実演で振替を行う中学生の門下生】



【振鳩の披露】